

## 平成19年12月の解説（週間天気予報）

### 【12月の天候状況】

上旬のはじめに低気圧が日本付近を通過して、全国的に雨や雪が降りました。その後は冬型の気圧配置が続き日本海側では雨や雪の日が、太平洋側では晴れの日が多くなりました。中旬の前半には日本付近をしばしば低気圧が通過して全国的に雨や雪の日が続きましたが、後半は冬型の気圧配置となり日本海側では雨や雪の日が、太平洋側では晴れの日が多くなりました。下旬のはじめとおわりに低気圧が日本付近を通過して全国的に雨や雪の日が多くなりました。

月を通しての日照時間は、ほぼ全国的に平年より少なくなりました。降水量は平年に比べて北日本太平洋側、東日本、西日本で多く、北日本日本海側で少なく、沖縄・奄美では平年並でした。気温は北日本で平年並、東日本、西日本では平年より高くなりました。

### 【12月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年（注）より1ポイント高い75%でした。九州北部地方で4ポイント、九州南部地方で5ポイントそれぞれ低く、北海道、北陸、沖縄地方で4から13ポイント高くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、全ての地方で例年を下回りました。特に北海道、北陸、近畿、中国、九州南部地方では0.7小さく、全国平均は例年より0.6小さい1.7でした。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差はほぼ全ての地方で例年を下回りました。特に関東甲信地方で0.4、近畿地方で0.5それぞれ例年より小さく全国平均では例年より0.3小さい1.9でした。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

### 【12月の週間天気予報から】

12月22日から23日にかけて、低気圧が日本の南海上を東へ進み（図1）、西日本、東日本の広い範囲で雨や雪が降りました。東京地方の週間天気予報では、23日はおおむね雨が降る予報をしていましたが、22日は雨が降らない予報をしていました。

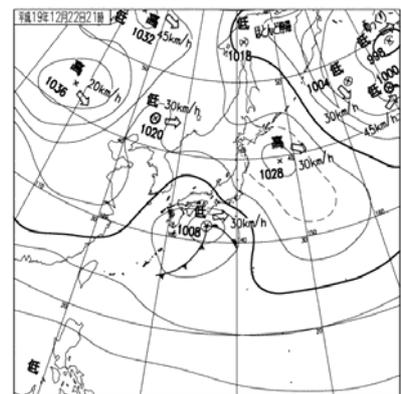


図1 12月22日21時の地上天気図

図2は15日(7日前)、17日(5日前)、19日(3日前)発表の予報で使用した22日21時を予想した資料です。それぞれの資料は低気圧と高気圧の位置に多少の差はありますが、どの資料も九州付近に低気圧があって降水の予想範囲は西日本で、関東地方には達していません。このため19日の予報まで一貫して東京地方での雨の降り出しは23日になってからと予想していました。

ところが、実際には低気圧の動きが予想より早く22日21時には紀伊半島の南まで進んだため(図1)、東京地方では22日の夕方から雨が降り出し、23日の昼頃まで続きました。

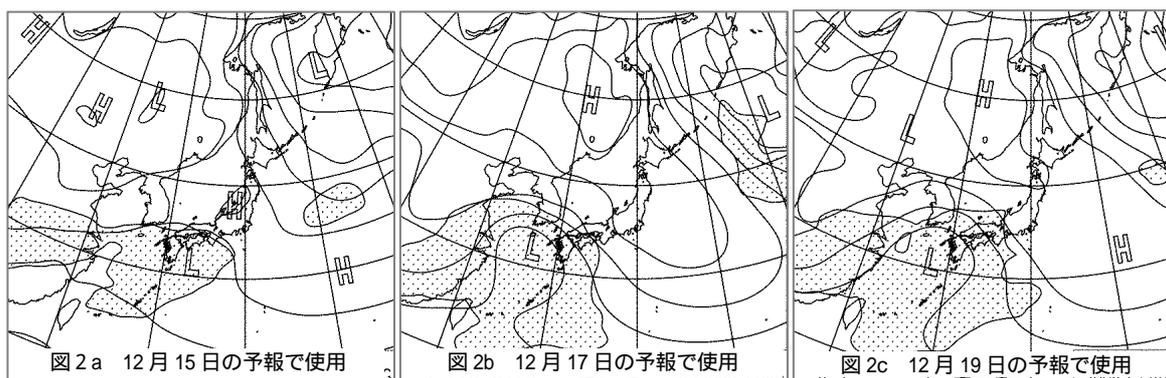


図2 週間天気予報で使用した12月22日21時の予想資料：水玉模様は降水が予想される範囲

この事例では、低気圧が日本の南岸を東へ進むことは7日前からほぼ予想できましたが、3日前の予報までは低気圧の動きを遅く予想していたために、雨の降り出しの時期が予想より早く、雨は降らないと予想した22日の夕方から雨が降り出しました。週間天気予報は、直前の明日、明後日の天気予報に比べて誤差が大きくなりますので、数日後に雨や雪の予報が発表されている場合には、その前後の日も含めて新しい予報で確認されるようお願いいたします。

#### 【2月の週間天気予報の利用にあたって】

日本の南岸付近を西から東へ移動する低気圧を南岸低気圧といい、その進路や発達程度によって本州の太平洋側の地方に雨や雪を降らせます。低気圧に向かって冷たい北よりの風が吹き込むため気温が下がり、2月には本州の太平洋側の地方でも雪が降り、時には大雪となることもあります。天気が雨になるか雪になるか、またその量がどの程度になるかは、低気圧の進路や発達程度の微妙な違いによって大きく変わります。地域や時間によっても様々に異なる天気変化を数日前からの確に予想することは難しいことです。南岸低気圧の影響で雨や雪が降る予報が発表されている場合には、降水確率(雨や雪の降る可能性)の利用も含めてなるべく新しい予報で確認されるようお願いいたします。